

(様式1) 実践事例

学校名	福島市立矢野目小学校	校長名	角田俊文		
住所	福島市南矢野目字関端2番地の1	児童数	384名	学級数	15
TEL	024-553-4536	ホームページアドレス	(なし)		

きめ細かな学習指導・生徒指導を目指して

1 少人数指導の計画等

- 第1・第2・第3学年において、少人数学級編制（学年3学級編制）を行い、学級担任による丁寧できめ細かな指導に心がけ、児童一人一人の学習や生活状況を十分に把握するとともに、日常の声かけや励ましを通し、不適応等に素早く対応できるようにする。
- 全学年において、少人数教育のよさを生かし、国語科や算数科を中心に授業でのつまずきに素早く対応する。また、算数科の習熟を図る場面において、TTやコース別学習を取り入れ、個に応じたきめ細かな指導を行う。

2 実践の概要

<第1学年の実践>

- 第1学年においては、3人の学級担任が、Q-Uテストの結果から各学級の実態を共通理解し、これからの学級経営の取組や授業における児童一人一人への対応の仕方について話し合い、指導に生かした。また、体育科、生活科においては学年合同で授業を行い、学校における学習面や生活面での約束等を身に付けさせるようにした。それぞれの学級担任は、どの児童にどのような支援をすべきかがわかり、意識して声をかけたり、意図的な指名をしたりして児童の意欲を高めることができた。児童は、「先生に声をかけてもらい、うれしい」、「合同授業は、先生が多いので授業が楽しい」という思いをもつようになった。

<第3学年の実践>

- 第3学年から学習が始まる社会科と理科においては、児童一人一人の意欲・関心を高めるために、事象や資料の提示の仕方を工夫した。児童の「なぜ」という問いを引き出し、学習課題に結び付けることで、課題に対する追究意欲も高まった。一人一人の学習状況を把握し、称賛したりアドバイスしたりしながら、児童の考えを見取り生かし授業をすすめることで、児童は、学習のすすめ方や調べ学習、観察の仕方等の基本を身に付けることが徐々にできるようになってきた。
- 国語科と算数科においては、授業終末の「振り返りの時間」や「習熟を図る場面」において、コース別学習や個別指導を積極的に取り入れた。特に、コース別学習は、単元構想の段階で、児童の実態を踏まえて明確に位置付けた。学級全体で本時の課題を解決後、解決状況に応じて、発展的な問題を行うコース、本時の課題と同様な問題を行うコース、基礎基本の定着を図るコースを設定し、自分に合ったコースを選択できるようにした。児童は、自分で選んだコース別学習に、意欲的に粘り強く取り組んでいた。

- 音楽科や図画工作科において、少人数指導のよさを生かし児童の願いや思いを大切に学習活動を行うために、積極的に一人一人の表現活動に寄り添い、よさを全体で称賛した。児童は、達成感や成就感を十分に味わいながら学習を進めることができた。

<第5・第6学年の実践>

- 算数科において、習熟を図る場面を中心に、担任と担任外の教師によるTT指導の時間を、年間を通し週1時間ずつ行った。TT指導においては、一人一人の学習状況やよさを見取り、授業中や授業後に必ず共有するようにした。
児童は、習熟に応じた問題を選択したり、少し難しい問題に挑戦したりしながら、意欲的に学習に取り組むようになった。そのため、TT指導のときは積極的に質問しようとする姿が多く見られるようになった。
- 今年度からプロジェクトとして、教職員による「個別支援向上チーム」を立ち上げ、希望する6年生の児童に、昼休みや放課後の時間にグループ指導を行った。小学校卒業に向け、基礎的・基本的事項の理解・定着と学習意欲の向上を目的に行った。主体的に取り組む児童が多く、学年全体で頑張ろうという機運が盛り上がっている。

3 実践の成果と課題

- 少人数学級のよさを生かし、担任によるきめ細かな指導の継続により、学習面・生活面ともにねばり強く活動に取り組む児童、目的意識をもって活動に取り組む児童が増えてきた。
- 小学校の入門期である第1学年では、3人体制で学級の壁を取り払い学年全体で指導を行ったので、早い段階で小学校生活に慣れ、多くの児童が小学校は楽しいと思っている。
- 高学年で実施したTT指導により、「問題を正確に読み取って解く」、「どの部分が自力解決できない内容なのかを明確にしてから解く」という姿勢を身に付けた主体的な児童が増えてきている
- TTを週時間割に組むことはできたが、さらにTT指導のよさを十分に生かすために、学習内容の精選や教材等の準備、教師間の連絡等の改善を図り、来年度の少人数教育をより充実したものにしたい。